



スタディサプリ

講義動画活用で基礎学力向上と 新たな授業開発が可能に

— 郁文館グローバル高校(東京・私立) —

取材・文／丸山佳子



右から
教頭
土屋俊之先生
英語科 教諭
柏原健人先生

School Data

創立1889年／国際科
生徒数293人(男子130人・女子163人)
進路状況(2015年度)国内大学進学52人、海外大学進学27人、
専各進学3人、その他5人
東京都文京区向丘2-19-1
TEL 03-3828-2206
URL <http://www.ikubunkan.ed.jp>

■「スタディサプリ」の活用術

- 高校1年のときに目標を決めて頑張った
反復学習で、一歩夢に近づいた

「高校卒業後の夢は、マサチューセッツ工科大学で学ぶこと。高い高い目標ですが、高校1年生のときに「スタディサプリ」を使って好きな理系科目を自習し、英文法は<中学講座>まで戻って分かるまで反復学習したことで自信が付き、成績が伸びて希望の高校に留学できました。留学後はもっと活用して、夢を叶えたいです」(高校2年・和久井拓斗くん。カナダ Centennial Collegiate Vocational Institute留学中。写真は、ホストファミリーと)



- 高校2年の留学後は、英語キープと
英検準1級や定期考査対策に活用中



同校の留学は1人1校制度で日本語禁止。「スタディサプリ」の講義視聴も禁止である。留学先から帰ってきた3年生からは、「英検準1級の試験対策に使いました」(中村龍之伸くん・写真右)、「週に1回程度集中的に視聴して、英語力をキープしています」(大和泰雅くん・写真中央)、「英語の授業前の予習に活用しています」(小川亜佐人くん・写真左)など、様々な活用法が。

- 高校3年次に、受験対策に活用して
第一志望の大学に合格！

「将来海外で働くためには、正しい文法が使えなければなりません。そこで、3年になってから「スタディサプリ」で関先生の英文法講座をすべて視聴。1日4～5時間かかりましたが、おかげで大学にも合格し、大きな自信になりました」(2015年度卒業生、問田さくらさん・マレーシア Sunway University合格)



「世界史の講座では、そのつど地理的な視点から解説があり、視覚的に記憶することの大切さを学びました。また、現代文では主題、副題を色分けして理解することを学びました。『スタディサプリ』で勉強法を教えるもらったことが、合格につながったと思います」(2015年卒業生、勝山伸哉くん・大阪大学合格)

「本校が留学や体験型授業に力を入れたきたのは、言うまでもなく、これからの時代を生き抜く力を育成するためです。その力を伸ばす授業ができていくことは、本校の強味。その一方で課題も抱えてきました。それは、高校1年生までの基礎学力をいかに定着させ、生徒を留学先に送り出すかということ。これまでは、教師が単元

課題だった留学前の学力定着が 到達度テストと講義動画で可能に

「夢を叶える「夢教育」の一環として、10年前から全生徒に、高校2年次の1年間海外留学を必須としてきた郁文館グローバル高校。独自の単位認定システムにより3年間で卒業が可能で、現在では卒業生の3分の1が海外の大学に進学。国内の国公立や難関私大合格者も年々増えている。また、全校朝礼にNIE(Newsreader Education)を取り入れたり、大学・企業・地域と国際貢献や地域活性の課題研究を行う「協働セミナー」など、ユニークな体験型授業でも注目されている高校だ。

「『スタディサプリ』のメリットは、生徒の苦手分野だけでなく学習状況をデータで把握しながら指導できることです。4月からは「スタディサプリ」(ENGLISH)の導入で新授業を

別に復習講座を開設して指導していましたが、生徒の苦手分野は様々。教師の負担は年々大きくなっていました」と土屋俊之教頭は言う。
同校がこの課題解決に選んだツールが、予備校講師による講義動画の「スタディサプリ」だ。昨年4月に高校1年生に二斉導入をし、中学までの基礎学力を測る到達度テストを実施。生徒たちは「スタディサプリ」(高校講座)の中学総復習で苦手単元の講義を視聴し、5月初旬までに克服。その後は授業の予習復習に(高校講座)を活用しながら、12月に高校1年の到達度テストを実施して、冬休み中に苦手を克服。2回の到達度テスト実施で、中学と高校1年の学び残しがなくなり、基礎学力の積み上げが可能になったという。

「CT環境を整え、この2月からは留学中以外の全生徒にクラウドブックを導入したことで、生徒への課題はメールで送信するだけ。生徒からは講義視聴後の質問がメールで教科担当に届くなど、データ管理だけで基礎学力の定着が可能になりました。この画期的な仕組みのおかげで、今では『スタディサプリ』を活用して新しい授業を模索する教師も増えてきました」
そう話す英語科教諭の柏原健人先生も、今後は『スタディサプリ』(ENGLISH)を授業に取り入れていく予定だという。
「この新シリーズは英語検定の4技能をバランス良く伸ばせるのが特徴。留学前に耳と口を英語に慣らすことはもちろん、英語を聞きながらタイピングする力なども養えるので、毎朝20分程度の学習時間を確保するなど、活用法を考えているところ。社会のグローバル化や大学入試改革への対応を考えると、今後はますます授業の質が問われてきます。知識の習得は反復学習ができるツールを徹底活用し、知識の活用・探究力を伸ばす授業の開発に力を注いでいきたいですね」

*2011年にスタートした高校生向けオンライン学習サービス「受験サプリ」は、2016年4月より「スタディサプリ」とブランド名を変更しています。